

日本記者クラブ会報

第438号
2006年
(平成18年)
8月10日発行

〒100-0001
東京都千代田区幸町二ノ二
日本プレスセンタービル
◎社団法人 日本記者クラブ
http://www.jnpc.or.jp

9月11日「総裁選討論会」決定

ことし最大の政治イベントは9月の自民党の総裁選だろう。

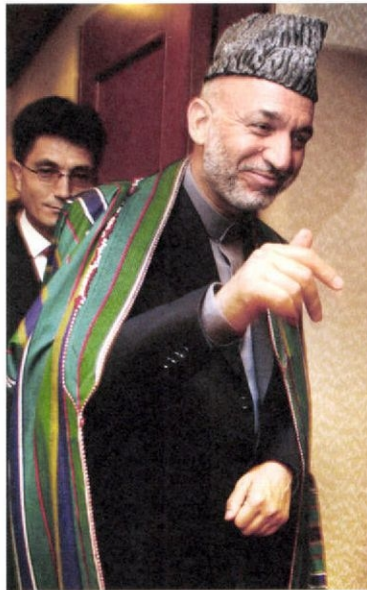
事務局では年初から、特別賛助会員・穂谷直彦さん(自民・広報本部専門委員)と、クラブ主催での立候補者による討論会を実現すべく連絡をとってきた。

総裁選管理委員会の設置を待つて、7月5日、滝鼻理事長名で臼井日出男委員長あてに、正式に依頼状を発送した。その結果、第2回選管委員会(7・19)で、日本記者クラ

ブ主催の総裁選討論会が9月11日(月)午後1時から3時で決定した。

クラブでの自民総裁選討論会は今年で5回目。過去4回の顔ぶれは以下の通り(敬称略)。

95・9・20(小泉純一郎 橋本龍太郎) 99・9・17(小淵恵三 加藤 藤一 山崎拓) 01・4・18(小泉純一郎 橋本龍太郎 亀井静香 麻生太郎) 03・9・11(小泉純一郎 藤井孝男 亀井静香 高村正彦)



「ここはよく覚えています」
カルザイ大統領(7・7)

2002年1月22日、2003年2月21日に続いてクラブでの3度目の会見。破綻国家の復興モデルかと期待されたアフガンも、このところタリバン勢力のもり返りで治安悪化。大統領のすてきなチャパンも順風にひるがえっているわけではない。

長い助走を終った総裁選も、9月8日告示、19日党員投票、20日国会議員投票が確定した。この期間中、9日に東京・新宿、10日・鹿児島、16日・札幌、大阪の4カ所で街頭演説会も行われる。

もちろん、テレビ各局への出演も多くあるだろう。告示前のブロック大会でも討論会が行われるので、争点や議論が総花的に出尽くした段階でのクラブ討論会になる。それを前提に、企画委員会は作戦を考え、各紙が翌日朝刊で詳報するに値するような内容のものにするため汗をかくことになる。

有力対抗馬とみられていた福田さんの「不出馬」表明(7・21)で、安倍さん独走の流れになった。が、本番はこれから。「消化試合」みたにになれば、政治のリーダーシップ自体が萎える。たまたま同じ日に昼食会にみえた、額賀防衛庁長官もまんざらでもなさそうだったので出馬を期待したい。大きな転換期の日本丸の船長選びなのだから。

小泉首相にも、総裁選の前に、有

終の美をナショナル・プレスクラブで飾っていただきたい。すでに招待状は届けてある。小泉さんは総裁選の討論会に3回、党首討論会に4回出席している。合計7回はこれからもなかなか破れないレコードだと思う。これだけ縁があるのだから、むげに断ることはないだろうと思うが、まだよい返事がない。

HPの「速記録」に注目を

ホームページ「資料室 会見速記録」掲載の昭和天皇・香淳皇后会見(1975・10・31)も参考にくれたと思うが、7月13日、朝日新聞は「戦争責任尋ねた唯一の会見」という記事を載せた。

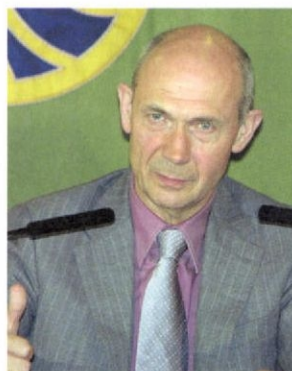
このクラブの速記録について、元会員の平野実さん(読売出身)が、質問したザ・タイムズの中村浩二記者(タイムズの前は毎日の外信部副部長などを務めた)の名は正しくは「康二」では、と連絡してくれた。毎日新聞などで確認したところ指摘の通りだったので、速記録を訂正した。元会員に感謝多謝。

ところで、最近のもののお薦めは福井日銀総裁(6・20)と田中元外務審議官(5・15)、それに英米2人の外人記者の小泉政権総括――。

(専務理事 岩崎玄道)

パスカル・ラミー

WTO事務局長

7・6(木) 記者会見 司会 矢島
誠司委員 通訳 池田薫 出席 82人

▼交渉再開へ精力的な活動期待

冗談を交えながら慎重に一つ一つ言葉を選んだ上で、「日本に譲歩の余地があることが確認できて有意義だった」と集まった記者に語りかける姿は、かつて欧州委員(通商委員)として精力的に活動していた印象とは異なる新鮮さを覚えた。6月末からジュネーブで開かれた世界貿易機関(WTO)非公式閣僚会合が不調に終わったのを受け、自ら主要国・地域との調整役を務め、「助けを借りた時にはまずベスト・フレンドに声をかける」として、最初の訪問国に日本を選んだ。

日本政府の交渉担当者のラミー氏評は「くせ者」「必ずしも信用できない」など、一筋縄ではいかないといいものばかり。事務局長に就任し

てからも、その評価に大きな変化はみられない。

一方で「先延ばしの余地はない」「政治的合意をつけることが先決。今しか動く時はない」などと、交渉をまとめる意義を説く姿には、目標達成への強烈な意思を感じた。

1泊4日の強行スケジュールで、小泉純一郎首相をはじめ関係閣僚、経済界の代表らとの会談を次々とこなし。その姿勢は、欧州委員として精力的に活動していたことから付けられたあだ名「エグゼ・ミサイル」をほうふつとさせる。

WTO新多角的貿易交渉(ドーハ・ラウンド)はその後の非公式閣僚会合でも各国の主張の隔たりが埋まらず、今年末の最終合意を正式に断念。政治的圧力を背景に米国や欧州連合(EU)、ブラジル、日本など主要国・地域が互いに相手に譲歩を求めて動かなかったため、交渉は長期化が必至の情勢となった。WTO自体の意義すら問われる状況となった今、めども立っていない交渉再開に向け、ラミー氏の精力的な活動が期待される。

時事通信経済部

松岡 一弘

ハミド・カルザイ

アフガニスタン大統領

7・7(金) 記者会見 司会
宮田謙一委員 通訳 澄田美都子
出席 112人 写真 II ガンマプレス

▼再建途上、警察力の強化を

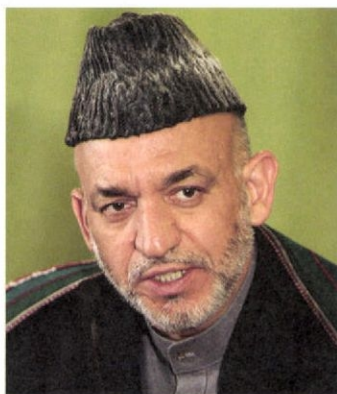
最近、アフガニスタンの治安悪化を伝える記事を多く配信している。

駐留多国籍軍と旧政権タリバンとの戦闘で多数の犠牲者が出ているが、新聞の片隅に載るだけの場合も多い。

同国をめぐっては、軍閥や旧国軍兵士の「武装・動員解除、元兵士の社会復帰」(DDR)

計画が6月末で終了。6万人以上が武装解除に応じたものの、再建への道のりは険しいと言わざるを得ない。

そんな中、「平和の定着東京会議」に出席するためカルザイ大統領が来日した。民族衣装チャパンをセ



ないまま時間切れとなってしまう。大統領は同じ日、会見に先立ち国立大学で講演した。平和定着会議で6千万ドルの支援を約束した日本に謝意を表明。乳児死亡率や識字率が世界最低レベルにあると「もう一度、アフガンに注目してほしい」と訴えた。終始穏やかだった語り口は一転、厳しい顔つきだった。

治安情勢について、国外からのテロリスト流入が大きな要因と指摘。また「1人の警察官が1000人以上の住民を守っている」と述べ、警察力不足との認識を示した。隣国パキスタンを念頭に置いた発言とも受

け取れたが、両国間での貿易が活発化していることを例に挙げ「関係は良好」とかわした。

大統領は米国を中心に西側各国と緊密な関係を築き、政権の求心力を高めたとされる。しかし、6月下旬には米軍などによる旧政権タリバン残存勢力の掃討作戦を「アフガン人が死ぬのは受け入れがたい」と戦略変更も求めた。米同時テロから間もなく5年たつが、ビンラディン容疑者やオマール師は行方知れず。

米国の政策に不満はないのか。質問しようとする手を挙げていたが、指名を受けられ

共同通信外信部

大西 利尚

グンター・フエアホイゲン 欧州委員会副委員長

7・13(木) 記者会見 司会 中井康朗
委員 通訳 西村好美 出席 39人

▼未来への指針作りの難しさ

もともとはドイツ社民党出身で同国の外務政務次官を務めた。99年に欧州連合(EU)入りし、拡大担当の欧州委員をつとめた後、04年にEUの企業・産業政策担当の副委員長に昇格した。欧州委員の大半を新顔が占める中で、経験豊富な同氏はEUの生き字引的存在だ。

2年前、25カ国体制となったEUはどこまで拡大するのか。東方の巨人ロシアとどう付き合っていくのか。フランス、オランダの国民投票で批准が拒否されたEU憲法はどうなるのか。こんな素朴な質問に、手慣れた調子でこたえていく。

「条約上、EU拡大に限りはない。地理的に欧州にあり、加盟条件を満たせば加盟できる」と言い切つてど



きつとさせた。だが、現実の加盟日程に上っているのは07年のブルガリア、ルーマニア、10年ごろのクロアチアまでで、トルコとの交渉には相当の年数がかかるとの冷静な見立てを示した。

イラク戦争当時、ピークを迎えていた米国中心の一極体制は中国、インド、ロシアの台頭によって次第に多極化世界の姿を表しつつある。欧州は、その一極を形成するのが自らの運命だと思い定めているのか。

「ロシアは大事な隣国だ。(米国がいくら批判しても) 戦略的な関係を変える必要は毛頭ない」「海賊品の追放のため、日米欧の協力関係を強めよう」といった発言からは、地域統合を着実に進めてきたとの自信がほとばしる。

ただ、EU憲法条約については「憲法はまだ死んでいない。大事なものは、憲法というタイトルではなく、中身だ。08年末までに最終解決策が決まる」と語るだけ。25カ国体制の未来への指針作りの難しさを感じさせられた。

朝日新聞論説委員 協阪 紀行

与謝野 馨 経済財政・金融担当相

7・14(金) 記者会見 司会 田崎史郎委員 出席 12人



▼「財政赤字」は忍び寄る危機

「日本銀行の政策決定会合の話題は一切触れないのでご容赦いただきたい」。7月14日午後1時から始まった記者会見の冒頭で、与謝野氏はこうクギをさした。

日本銀行が2001年3月から続けてきたゼロ金利政策の解除を決める政策決定会合の当日だったからだ。実際、日銀がゼロ金利解除を発表したのは会見の真つ最中だった。

冒頭発言では金融政策には触れなかったが質疑応答では「例外的な政策から脱却しなければならぬという方向性は正しい」とゼロ金利解除に理解を示した。

本題は経済財政担当相として7月7日にまとめたばかりの政府の骨太方針2006。「日本は明確な危機

に立ち向かうことには慣れているが、財政問題のように少しづつ病状が悪化していく危機にはあまりうまく対応できないのではないかと心配している」と財政再建の重要性を訴えた。財政赤字問題を「忍び寄る危機」(クリーピング・クライシス)と表現したのが印象的だった。

5年半にわたる小泉純一郎政権の業績については「自民党の持ついた古いモノを壊し整地した」と評価したうえで、ポスト小泉政権では「整地したところにどんな家を建てるかということが重要になる」と見方を示した。「壊す時代」から「設計と建築の時代」に入り、国民への説明責任がより重要になるという見立てだ。ポスト小泉政権での財政再建などの政策課題をどう進めるかを意識した発言だ。

当然、秋の自民党総裁選への出馬意欲を尋ねる質問も場内からは飛んだが、「新聞や雑誌に出ると家に帰って女房から『とんでもない』としかられる。家が治まらないと国も治まりませんから」とかわした。

日本経済新聞編集委員兼論説委員

藤井 彰夫

長谷川 毅 カリフォルニア大学 サンタバーバラ校教授

7・14(金) 著者と語る「暗闘・スターリン、
トルーマンと日本降伏」 司会 石川洋総務部長
河野通和中央公論新社取締役 出席 58人

▼日本外交はアヘン中毒だった



緻密で
重厚な長
谷川教授
の語り口
だが、と
きどき
見出し
にぴった

りの強い言葉が飛び出す。「ソ連はアヘンだった」。昭和20年6月以降、東郷外相以下和平派はソ連を通じて戦争終結を図ろうとする。ところが、スターリンの方は日本との戦争に加わって領土を獲得する腹づもりだから、ソ連軍の準備が整う前に戦争が終わっては困る。恐るべきスピードで極東に兵力を移動させながら、日本に対しては、ソ連の中立を信じさせ、時間稼ぎをした。

和平派は見事にソ連の術策にはまり、日本の運命を決する貴重な2カ月余を空費したわけだ。長谷川教授は「希望的観測が戦略的思考にすりかわり、ソ連があるために英米との取引を回避してしまった」と分析し、現実を直視できなかった日本外交を

アヘン中毒になぞらえた。

長谷川教授の目に、日本外交のおめでたさは今も変わっていない。

「アメリカと仲良くしさえすれば、アジアも問題ない」ということはない。アメリカも深いところに行くと反日感情がある」と強く警告した。

近頃のアメリカは、傲慢なカウボーイのような国になってしまったが、長谷川教授に言わせると、原爆投下を正当化する「歴史認識」を反省しない限り、アメリカのユニララルな振る舞いは改まらないそうだ。7月12日、「天皇ご自身が平和を望んでいる」という東郷外相の電報を解読したアメリカは、「皇室維持」を盛り込んだボツダム宣言案を準備する。

ところが実際のボツダム宣言は「無条件降伏」の押し付けに変わってしまった。わざわざ日本に受け入れられない内容にしたのはなぜか。日本の「拒否」によって「原爆投下を正当化するためだった」。戦争終結へのほかの道は閉ざし、投下に突っ走ったアメリカの姿を長谷川教授は鮮やかに示してくれた。

フジテレビ出身

松浦 茂長

山口 仲美 埼玉大学教授

▼日本語の歴史を知る意味

「『日本語の歴史』を語る」という5枚つづりのレジュメが配られていた。岩波新書の著書を要約したもので、これを見れば、話題の新作を読了したのと同じ効果が得られる。「本日の話」として、言葉が注目を集めるのはどんな時か？なぜ漢字が読めないか？日本語の歴史を知る意味は何か？等7項目をレジュメに明示している。まことに至れり尽くせりの著者である。

山口教授は立ったまま、大学の講義並みのレクチャーをしてくれたが、笑みをたたえてゆつくりと歯切れよく、分かりやすいと好評であった。

識字率が世界でもトップクラスの日本人が、なぜ漢字が読めないか、と言われると面食らう。でも、行火・



暖簾・炭団と例示される
と、戦前の暗記教育を受け
た世代でもとっさ

7・19(水) 著者と語る「日本語の歴史」
司会 井田由美委員 出席 65人

には書けない。大学生ではちゃんと読める人は少ないだろう。まして、人名に至っては読み方が多岐で、外国人は日本人同士なのにと不思議がるといふ。星凜(あかり)、清楓(さやか)、聖瑛(あきら)となると、名付け親と本人しか読めないに違いない。音と訓の範囲内で名付けを行うおう、と著者は提唱する。

古い漢字カナ交じり文の1例として挙げた『今昔物語』の引用は、女袴ノ股立ヲ引開テ見スレバ、股ノ雪ノ様ニ白キニ、少シ面腫タリ。左右ノ手ヲ以テ毛ヲ搔別テ見レバ專ニ可憐キ物也。

と、美女が陰部の腫瘍を医者に診てもらった情景がポルノまがいに描写されている。これは日本記者クラブ向けサービスとか。

パソコンの普及に伴い字が書けなくなった風潮も、質疑で取り上げられた。先生は「時代に逆らわない。読めればよいし、パソコンの文字から選べればよい」と達観し、「日本語の歴史を知る意味は、これからの日本語をどうすべきなのかを知る時の指針になる」と著述の狙いを語った。

東京新聞出身

松永 太



転換期における挑戦すべき課題として、①ゼロ金利政策からの脱却と高水準の

▼デフレ脱した日本経済
2006年OECD対日経済審査報告書発表のためにセットされた記者会見。グリア事務総長は、「日本のすばらしい経済パフォーマンスに祝いを申しあげたい」と切り出した。18カ月前の05年対日審査報告書は、経済成長率の下落、銀行貸出と地価の継続的下落、正規雇用と賃金の減少などを指摘、日本経済が1990年代初頭の資産価格バブルの崩壊がもたらした「負の遺産」に取り付かれていると分析していた。

だが、グリア氏は、今や日本は「拡大局面の強さと持続性によって、資産価格バブルの負の後遺症をほぼ克服することができた」「失われた10年」と長期にわたるデフレを脱却した」と言明、日本経済を賞賛した。

そして、財政赤字からの脱却という「二重の出口政策」②地域貿易協定を通じた貿易自由化の遅れ克服③次期政権での規制改革継続の3点を挙げた。これに関連して注目したいのは、06年対日審査報告書が指摘している日本経済の陰の部分。具体的には、労働市場における二極化の拡大だ。報告書は、「10年前に全労働者の19%だった非正規労働者の割合は30%以上に増加」「パートタイム労働者の時間当たり賃金は平均してフルタイム労働者の40%にすぎない」と強調。所得格差や貧困の拡大を反転させる重要な鍵は、労働市場の二極化の緩和だと警告しているが、グリア氏の発言のトーンは、まろやかに過ぎた気もする。

グリア氏は、事務総長選挙で激戦を勝ち抜いたメキシコ出身の財政のプロ。財務相時代には、豊富な人脈を駆使し、金融危機克服に尽力した。50回以上の訪日歴があり、内海、行天、豊雄各氏ら日本の歴代財務官とは旧知の仲。英・仏・独・イタリア・スペイン・ポルトガルの6カ国語を操る真正正銘の国際人だ。

時事通信解説委員 鈴木 美勝

アンヘル・グリア OECD事務総長

7・20(金) 記者会見 司会 中井良則委員
通訳 西村好美 大野理恵 出席 67人

額賀 福志郎 防衛庁長官

7・21(金) 昼食会 司会 島田洋一理事
影山日出夫委員 出席 156人



▼安保通の遅咲きデビュー

小淵内閣に続く2度目の防衛庁長官で、安全保障分野の第一人者だ。経済財政担当相や自民党政調会長などの要職も歴任したが、意外なことに日本記者クラブでは初めての会見だった。最初の防衛庁長官と経済財政担当相はいずれも不祥事の責任をとって任期途中で辞任。そうした巡り合わせの悪さもあって、当クラブへの遅咲きデビューとなった。

本来は7月5日に昼食会が予定されていた。しかし北朝鮮のミサイル発射と重なり、2週間余り後によりやく実現した。この間に国連安全保障理事会での北朝鮮決議やイラクからの陸上自衛隊撤収などの動きがあった。クウェートで自ら陸自隊員を出迎えた直後の登場となり、結果的には絶妙のタイミングとなった。

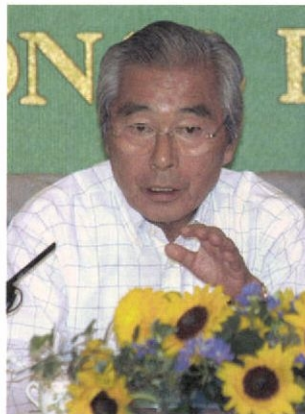
産経新聞の記者出身なので「先輩のみなさんの前で講演できるのは光栄」というあいさつで始まった。イラクへの自衛隊派遣、北朝鮮のミサイル問題、在日米軍再編という三つの重要テーマをていねいに説明し、日米同盟の重要性を力説した。

米軍普天間基地のキャンプ・シュワブ沿岸部への移設計画で決めた手となった滑走路をV字形にする構想に触れ「夜中にひらめいた。2本の滑走路を造って住居の上空を飛ばないようにしようと思った」などと、エピソードを交えた話しぶりはわかりやすかった。在任期間が異例の4年目に入る守屋事務次官の人事について「弊害はないのか」という意地悪な質問にも正面から答えていた。

会見の日の夜に福田康夫元官房長官が総裁選不出馬を表明。安全保障分野に絞った会見だったが、話題性からか、質問に一言答えただけの「これからは続々と(候補者が)出てくるのではないか」という発言がニュースで多く取り上げられていた。

日本経済新聞編集委員兼論説委員 西田 睦美

杉浦 正健 法相



▼「社会奉仕命令」導入に意欲

受刑者らに懲役や禁固刑の代わりに、ごみ拾いなどを科す「社会奉仕命令」。欧米では定着しているが、日本ではなじみのない拘禁制度に近い将来、導入されるかもしれない。この新制度が法制審議会（法相の諮問機関）に諮られる2日前、タイミングよく昼食会が開かれた。本人の口から制度の狙いを聞く、絶好の機会となった。

「国際的評価の高かった日本の安全神話は、今や崩壊しつつある。古きよき時代のころのままで対応してきたものを、根本から改めたい」。就任から9カ月。弁護士出身だけに、今の法務行政の行き詰まりを強く感じる機会が多いようだ。

7・24（月） 昼食会 司会 石村英二郎理事
菅沼堅吉委員 出席 51人

中でも深刻なのが、全国の刑務所が陥っている「過剰収容問題」。全国の刑務所の収容率は、昨年末時点で116%。拘置所などを含めた刑事施設全体でも104%の定員オーバーになっている。

この問題の打開策として、法相が導入に意欲を示しているのが社会奉仕命令だ。「犯罪の」まったくの素人は、最初から刑務所に入れるのではなく、奉仕活動をやってもらおう。道路交通法違反など比較的軽い刑を受け、更生意欲が認められる者が対象になりそうだ。

質疑では、保護観察官の大幅増員を目指す法務省の方針について、「国家公務員の人員削減が叫ばれている中、果たして実現可能か？」と迫る質問もあった。

法相は「国民の治安に直結する部分は増員せざるを得ない」と強調する一方、「保護観察官の在り方については批判も強い。（改革なしに）今のまま増やしても、ゼロを掛けてもゼロにしかない」と苦言も。率直な発言に、会場にいた法務省職員は肝を冷やしたに違いない。

東京新聞社会部 鬼木 洋一

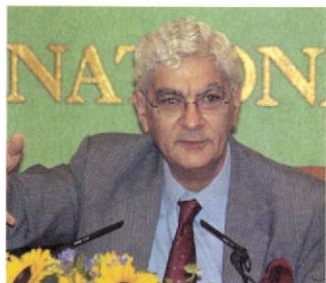
アフタブ・セツト元駐日インド大使

7・24（月）シリーズ「在日外国人のみなさん小泉政権5年」
⑤ 司会 春名幹男委員 通訳 池田薫 出席 52人

▼東アジアの和解と靖国参拝

インド外交官として外務省スポークスマン、駐日インド大使などを歴任し、現在は慶応大学教授。ポジシヨンは違っても、知的でウィットに富む弁舌は健在である。

「小泉首相の靖国神社参拝をどう考えるか」の問いに、神社遊就館に写真が飾られている3人のインド人の紹介から切り出した。日本のアジア主義者に庇護されたラス・ビハリ・ボース、日本軍の後ろ盾でインド国民軍を率いたスバス・チャンドラ・ボース、東京裁判で被告全員無罪を主張したラダビノッド・パール判事である。それぞれのようない入れから日印関係の貢献者とされているかを説明し、パール判事については日本軍無罪論でないことを強調した。



本軍無罪論でないことを強調した。そして、「彼らの写真が神社に飾られている

のと、A級戦犯が合祀されているのは別のことであり、混同してはならない」と述べ、著名なインド人が日本の戦争責任否定や、合祀正当化の論調に利用されている現象に批判的見方を示した。

そのうえで、昨年5月にモスクワで開かれた対独戦勝60周年記念式典などに各国指導者が一堂に会したことに触れ、勝者と敗者が和解する大切さを訴えた。「そのような和解が東アジアでは達成されていない事実を、日本の指導者が靖国参拝をすることでどうかの判断の要因にすべきです」と、韓国・中国の指導者や天皇が合同で靖国参拝できない現状を招いている政治に疑問を呈した。

このほか日本の政治家やメディアにはびこっている、中国の脅威に対する牽制を狙ってインドを重視しようという短絡的議論に関しては、冷戦が生み出した封じ込め外交がグローバル社会では時代遅れでしかない」と指摘した。中印関係改善の動きにも言及し、「インドも中国も封じ込めるにはあまりに大きすぎます」とユーモアでとどめを刺した。

毎日新聞出身 川西 和夫

重村 智計 早稲田大学教授

7・28(金)シリーズ「北朝鮮」⑦
司会 中井良則委員 出席 10人

▼これがミスターXです

何を考え、どう動くか、予測がつかない北朝鮮。あちこちに張り巡らしたネタ元から意外な事実をいち早くつかむ。その上で、わかりやすく説明する。大学教授になってから、この二つの力を兼ね備えた根柢からのジャーナリストが重村智計さんだ。

6月に『外交敗北 日朝首脳会談と日米同盟の真実』(講談社)を出版したばかりだ。研究会では、いきなり、本のカバーに使われた2002年9月17日の日朝首脳会談の写真を示して「これがミスターXです」。

会談冒頭の写真撮影が終わる時、金正日総書記と並んで座ろうとした人物がいた。それこそが、日本外務省が交渉ルートとして頼ったミスター



Xだ、という。通訳の隣の席にメモ用紙と鉛筆が置かれて、最

初はだれも座っていない。写真には写りたくない人物だ。そんな疑問をきっかけに、さまざまな情報を組み立て、「国家安全保障部第一副部長」と突き止めた経緯を説明した。

世界を驚かせたミサイル発射については「軍部の暴走というより、軍部の意向通り。先軍政治とは事実上のクーデターだ」。小泉首相の評価は「核問題と拉致問題を解決すれば外交正常化交渉ができる」と(北朝鮮に対し)踏み込んでいけば、歴史的な成果になったかもしれない。

さらに金総書記の後継者問題では「(金総書記は)自分の死後、自分を否定されないようにしたいはず。金日成もだから息子を後継者にした。だが、後継者問題は棚上げになっている」と語り、集団指導体制への移行という見方を指摘した。

中国と韓国は北朝鮮の現状維持を最優先し、体制崩壊を防ごうとする。米国はレジーム・チェンジ(政権変更)を選択肢から決して除外しない。では日本の対北基本戦略はどこにあるのか。ポスト小泉の難問だ。

毎日新聞論説委員 中井 良則

■会議報告■

第274回会報委員会

(7・7 ゴールドルーム)

8月号、9月号の編集について協議した。

出席 住田委員長、石田、伊藤、仙石、高橋、松本の各委員。

第167回施設運営委員会

(7・11 シルバールーム)

5、6月のアラスカ売上と貸室利用状況を事務局から報告した後、9月中旬にラウンジの電話ブースの一部撤去・改修工事を行うことを決定し、理事会に上申した。

これは喫煙室新設で設置場所がなくなったCSモニターテレビをそこへ配置し、若干手狭になったラウンジのスペースをわずかも確保するためのもの。携帯電話の普及で利用が激減した電話ブース(全部で4ブース)を1カ所だけ残して空いた場所にモニター3台を設置し、新聞閲覧などのスペースとしても有効利用する。

出席 上滝、加藤、阿部、梅田、池浦の各委員。

第347回会員資格委員会

(7・13 小会議室)

下記の委員交代を紹介した後、8月1日付の会員入退会を審議し、理事会に答申した。

共同通信社 奥野知秀氏から二藤部義人編集局次長 NHK 藤森隆行氏から今井環報道局編集主幹・取材センター長 フジテレビ山本之聞氏から柿原理一郎報道局解説委員長

出席 伝川、泉、二藤部、今井、柿原、工藤の各委員。

第356回企画委員会

(7・14 大会議室)

左記の委員交代を委員長が紹介した後、9月の自民党総裁選立候補者による討論会について協議し、進め方や担当委員などを決定した。今後のゲスト候補や研究会テーマなどについても意見を交換した。

時事通信社 稲田好美氏から田崎史郎解説委員長 テレビ朝日 角南源五氏から芋原一善報道局次長兼報道企画部長

出席 宇治委員長、宮田(謙)、石井、中井(良)、脇、田崎、菅沼、影山、飯野、井田、芋原、広瀬、鳥居、三好の各委員。

第427回理事会(書面)

一、役員の一部交代(19ページ別掲)を了承した。

一、施設運営委員会から提案のあったラウンジ電話ブースの一部撤去・改修工事を了承した。

孔子孟子の末裔を訪ねた頃

中国・山東省と台湾

高橋 茂男

世の中に「孔子の〇〇代に当たる子孫」「孔子の直系、第〇〇代末裔」と称する人はいくらでもいる。中国大陸だけでも、孔という姓の人は少なくとも20数万人はおり、そのほとんどが孔子の子孫を自称している。

「我こそは孔子の直系」と自称する人は日本にもいるし、韓国、アメリカなど、それこそ世界各地にいるようだ。

しかし、孔子一族の本家の主となると世界に1人しかいない。その人こそ、孔子77代の孔徳成さんで、現在台湾に住んでいる。

孔子は今から2500年ほど前の中国春秋時代の人で、孔子の200年ほど後に、孟子が現われた。孟子の家系も連綿と続いて現代に至り、孟子本家の主、孟子75代の孟祥協さんも台湾在住である。

孔子の故郷、中国山東省の曲阜県（今の曲阜市）を初めて訪れたのは、北京特派員当時の1980年のことだった。文化大革命が終息して間もない頃で、孔子一族の墓所である孔林などには紅衛兵による破壊の爪痕が生々しく残っていたし、文化大革命の中で旧思想の代表として批判にさらされた孔子とその教え「儒教」は、未だ完全には復活を遂げていなかった。当時、曲阜の人口50万人のうち10万人が孔姓を名乗っていた。

孟子の故郷、鄒県（今の鄒城市）は曲阜の南隣にある。81年晩秋に訪れた時、孟子廟と孟子本家の主たちが代々住んできた孟府は、全体に黒っぽい色調で、「墨絵の世界」を思わせた。広大な孔子廟の建築群が黄色に輝く堯、朱色の壁と柱でキンキラキンの印象だったのに対して、孟

子ゆかりの建物はちんまりとして、いかにも渋かった。

曲阜と鄒を訪問して分かったことは、孔孟一族の本家の主たちはどちらも、1949年蒋介石と共に台湾に渡ったまま戻ってきていないということだった。そして、孔子77代の孔徳成さんと孟子74代の孟繁驥さんは、いずれも台湾で健在であると教えられた。それ以来、台湾に行ったら孔孟の子孫を訪ねようと思っていたが、あの頃の中台関係は今と違って、中国大陸から台湾に行くことは事実上不可能だったことなどから、機会がないままに13年が過ぎてしまった。

香港特派員になった94年、私が初めて台湾の土を踏んだ時、孟繁驥さんはすでにこの世にはなく、子息があとを襲っていた。即ち、孟子75代の孟祥協さんである。

孟祥協さんは、台北市郊外でひっそりと暮らしていた。賑やかな市場

からちょっと横道に入った、とあるアパートの3階が住まいである。観音開きの門扉を開けてアパートに入る。エレベーターはない。祥協さんは白の開襟シャツに痩身を包み、布靴を履き、はにかんだような表情で私を中に案内してくれた。

独身を通してきた祥協さんはひとり暮らしのせい、部屋に家庭の匂いといったものは乏しかった。居間で目に入るものといえば、壁に掛けられた陳立夫（蒋介石の側近）の一对の書、違い棚の上の孟子像、それに基盤の置かれた小テーブルくらいのものだった。

祥協さんの職名は「亜聖奉祀官」、亜聖こと孟子を祀る行事をとり行う世襲の公務員である。サラリーマンのように毎日出勤する必要はないし、生活は台湾の政府が保障している。このように書くと、結構なご身分といわれそうだが、そうとばかりもいえないようだ。聖人の末裔に相応しい身の処し方を求められるし、他人に後ろ指をさされるような振る舞いは無論できない。自ずと、つき合う範囲も限定されてしまい、世間とあまりつき合わずに暮らすようになる。生きていく上で、窮屈なことが少なくないようだ。

趣味は囲碁で、日本で活躍してい



孟子75代孟祥協さん（左）と筆者 1994年12月
台北郊外の孟祥協さんの自宅で

る王立誠9段は、小さい時、祥協さんに碁の手ほどきを受けたひとりだという。

孟子直系を売り物にする孟蒙という名の画家が、山東省から香港にやってくる。香港各紙は「孟子73代直系来る」と書き立てた。孟蒙氏は香港マスコミのインタビューを通じて、文盲が少なくないといわれる大陸の孟子の子孫たちのために「孟子基金会」を作りたいと提案し、一族の「総帥」

と仰ぐ祥協さんに協力を求めている。

驚いたことに、祥協さんは孟蒙氏を「73代直系」とは認めず、相手にしなかった。孟蒙氏が認めてもらえなかったワケは、名前の漢字にあった。孟子一族には「孟氏輩系表」というものがあり、はるか先の105代まで、代ごとに男子の名前に使う漢字が決められている。それによれば、73代は「慶」であり、系図には73代として慶恒、慶棠の2人の名前が載っている。73代直系を名乗るからには名前に「慶」の字が付いているはずで、これがなければ直系と認めるわけにはいかない、というのが祥協さんの論法であった。

孔子の77代といえば、閑静な住宅街の奥まった一角に住んでいるものと、私は勝手に思い込んでいたが、台北南郊の住まいを訪ねてみると、その思いは裏切られた。孔徳成さんは交通量の多い大通りに面した高層アパートに夫人と娘さん、それにお手伝いさんと一緒に住んでいた。

1920年生まれの徳成さんはすでに政府の役職を退き、大学で中国の古典を教えていた。温和な学者と

いった印象を受けたが、人に会うのはあまり好きではないようだ。日本最良で、坐骨神経痛を患う前はしばしば訪日したことがあり、「神保町の古書店街が一番好きだな。銀座もよく散歩したなあ」といつて懐かしがった。銀座の街角で、ベレー帽を頭に載せた老紳士とすれ違っても、この人が孔子の77代と気付いた人はまずいないのではあるまいか。趣味は読書、というより読書が生活そのものになっているようだ。部屋にの至るところに『四庫全書補正』などの古書が積み上げられていた。散歩と読書のほかに、人生の楽しみは何かと問うたところ、「もともと煙草を吸っていたのですが、10年前にやめました」との答えが返ってきた。

台湾の人たちが大陸に住む親族を訪問できるようになってほぼ20年になるが、孔徳成さんも孟祥協さんも一度も試みたことがない。共産党の支配を逃れる形で台湾に渡って半世紀あまり、今の中国大陸については、2人とも「言い難い」として多くを

語ろうとはしない。募る望郷の念を抱きながら、2人とも大陸への旅行申請を見送ってきたのは、たとえ一時帰国にせよ、中国が彼らの帰国を政治的に利用しようとしていることを知っているからだだろう。「それに、申請したことが分かったら、台湾を棄てて大陸へ帰って住む気か、と台湾の新聞は書くでしょう。書かれたら大変ですから」と祥協さんは語ったことがある。

孔孟の末裔に、先祖が残した数多い教えの中で、現代社会に一番必要と思われるものをひとつだけ挙げて欲しい、と同一の質問をしたことがある。孔子77代の答えは「己所不欲、勿施於人」（自分がして欲しくないと思うことは、他人にしてはいけない）、孟子75代の答えは「人有不為也、而後可以有為」（してはならないことをわきまえてこそ、人はやるべきことをやり遂げられる）であった。「得手勝手のまかり通る社会」という点で、孔孟の時代も現代もあまり違いはないようだ。

たかはし・しげお 1942年生まれ 69年日本テレビ入社 北京支局香港支局 解説室などを経て 02年退社 現在 文化女子大学教授 北京外国語大学客員教授 著書に『大陸・台湾・香港』『香港返還』（共著）など

聞きなれない電話のベルで目が覚めた。時刻は午前4時台。受話器をとると「ミサイルを撃つたらしい。東京が反応を欲しがっている」と、同僚記者のあわてた声が聞こえてきた。どんよりとした雲に覆われたピョンヤンに到着したのは、前日7月4日のこと。取材団を迎えた北朝鮮側案内員は、「共和国は梅雨に入ったばかりで、数日間天候は期待できない」と言っていた。

発射は、観測上の理由から日中の天気の良いときに行われるはずとの見方も伝えられていたのだが……。遠く離れた発射基地の天候はわからないが、まだ夜は明けていない。本場に長距離弾道ミサイルなのか？これまでもあった短距離ミサイルではないのか？などと、疑問を抱えながらの電話リポートとなった。

受話器の向こうからは、生番組のキャスターの質問が次々に飛んでくる。しかし、ここピョンヤンでは発射について何も伝えられていない。出勤する人々の表情にも特段変わったものはない。案内員も、我々からの質問で初めて発射情報を知るくらいだ。伝えられるのは、自分の目で確認できる範囲の様子だけだが、世界が注目する出来事を、当事国の一般の人々は何も知らないし、

知らされていないという事実、まさに「平穩なピョンヤン」を伝えることこそが、この国を知るうえで重要だと考えた。前夜は、最初のリポートがミサイル発射になるうとは思ってもみなかったが。

拉致問題の幕引き急ぐ北朝鮮

「それでは、日程を説明します。明日5日は午前9時半から、午後はテヤンリの招待所とオボンサン火葬場。翌日はキム・ヨナム氏会見。7日は午前ソン・イルホ大使の会見、午後は49号予防院です」

ピョンヤン到着の夕方、高麗ホテルに設置された「プレスセンター」で、スケジュールを初めて知らされた。そこには、日本メディア7社を迎えるため、国際電話回線とネット用電話回線それぞれ7本ずつが準備万端整えられている。

「やはり、来たな……」というのが、率直な感想だった。テヤンリは横田

めぐみさんが生活していたとされる招待所、49号予防院も北朝鮮側がめぐみさんが亡くなる前に入院していたと主張する施設だ。前の週に行われたヨナム氏と韓国メディアとの会見に続き、北朝鮮は日本側に対して、めぐみさん「死亡」の既成事実化を狙い、何らかの機会を設けるのではないかと予想はしていた。

そもそも、TBSが朝鮮総連に訪朝申請したのは、韓国の金大中前大統領訪朝直後の反応を取材したいと考えたからだ。6か国協議や日朝交渉、それにミサイル問題に影響があるのかどうか、タイミングを図っていたが、結局、前大統領訪朝は中止になった。一方、韓国人拉致被害者キム・ヨナム氏への関心が高まっており、こうした中で北朝鮮が取材を認めるのは、拉致問題でのアピールが中心になるだろうことは、感じとれていた。

ただ、思惑はどうあれ、現場を訪

れる機会は重要だ。韓国記者団との会見後、ヨナム氏の発言に対する数々の疑問が指摘されていた。取材対象に近づかなければ、事実は解明されないし、新たな疑問も生まれない。実際に何が撮れるかは不明だったが、現地取材は必要と判断した。

日朝の深すぎる溝

会見や取材先の様子は既報のものなのでここでは省くが、今回、北朝鮮側が繰り返したのは、拉致問題をめぐる日本側の対応への非難だった。「04年に調査を行った藪中局長(当時)」は、ヨナム氏が提出した遺骨を公開しないと文書まで記した「調査団は、拉致に関する疑問はこれで大方解決したとして、共和国の協力に謝意を示した」「日本側はそうしたことを発表せずに、拉致問題を国際化すべく騒ぎ立てている」等々。日本が「約束」を破り、問題を複雑化させたと言いたいのだろうが、その主張は問題解決の核心からは、とんでもなくズレている。

その大きく深い溝を埋めるために求められるのは、何よりも、北朝鮮側の真摯な行動だとの思いを強くした5日間だった。

たかはし・いっせ 1984年入社 ニューヨーク ロンドン各支局などを経て 04年4月から北京支局長

ミサイル発射

「ピョンヤンの反応送れ！」

▼高橋 一世

(東京放送)



イタリア主将カンナバロがW杯を高く掲げた——狙っていたこの瞬間 夢中でシャッターを切った (7.9)

7月9日、決勝の地ベルリン。プレスルームに向かう足取りは重かった。1カ月に渡る移動で半壊したカメラバックのせいではない。申請していたカメラマン用のチケットがウェイティング（空席待ち）に回されたからだ。今大会、朝日新聞社に与えられたカメラマン用取材カードはたったの1枚。2002年が5枚だから激減だ。しかもカードがあれば、フリーでピッチサイド（グラウンドレベル）に入れるわけではない。試合ごとに申請し、FIFAの許可が出なければ取材できない。

日本の新聞各社はどこも似たような状況だった。一般紙、スポーツ紙ともカードの割り当ては「1」か「2」。少人数での取材で苦しい上に、ピッチへのチケットが発給されない。もちろん日本戦は優先的に出るのだが、イングランドやドイツ、フランスなど、カメラマンが多い国の試合が苦しい。半日かけて会場を移動した揚げ句に門前払い。これは精神的にこたえた。

準々決勝のドイツ対アルゼンチン（ベルリン）では、日本の新聞社はほぼ全滅。どうもベルリンのプレスオフイサー氏は日本メディアが嫌いなようだ。意図的に日本を外している。

決勝戦——取材証手に入らず潜る

カメラマンのW杯

▼嶋田 達也

（朝日新聞社）

ようなフシさえある。決勝会場もベルリンだ。「決勝はやばいかも」。7月に入ってから、各社のカメラマンでささやき合った。

決勝の試合開始1時間前。キャンセル分のチケットを求め、FIFAのカウンターをカメラマンの集団が何重にも囲んでいた。帰省シーズンで混雑し、キャンセル待ち客であふれる空港のカウンターを思い出す。

日本のメディアが3割くらいか。多い。通常、敗退すればメディアも帰国する国が多いが、わが日本は国内でのW杯人気のためか、新聞社、雑誌、フリーカメラマンともほとんど帰国しなかった。まあわが社もそうなのだが…。

開催国のドイツ、対戦国のイタリアとフランスのメディアにまずチケットは配られた。残りは好成績を残したイングランドやアルゼンチン

に。日本にはほんの数枚。新聞社にはゼロだった。さすがにがつくりした。幸いその後、記者席のチケットを確保できた。ただこの席からは角度が悪い。撮影も禁止されている。とりあえず入場し、通路から撮影せざるを得ない。

しかしここは首都ベルリン。W杯決勝の会場だ。警備が厳重で、通路から超望遠で撮影するとすぐに警備員が飛んで来た。追い出されてはまた入り、また追い出されるの繰り返し。仕方ない。試合の撮影をあきらめ、目標をワールドカップの授与の瞬間に絞った。

場外の芝生に座り込む。夕暮れの中、刻々と色を変える決勝会場。重厚な石造りのスタジアムは五輪用にナチスが作ったものだ。大会前も含め、何回取材しただろう。歴史を考えさせる美しい建築。ライトアップするとさらに引き立つ。しかし、決勝の最中にそれを眺めるとは。予想もしていなかった事態だ。

警備員の目をこまかし、PK戦から、スタンドに潜り込んだ。だがジダンの退場劇には間に合わず、撮れなかった。それだけが心残りだ。

しまだ・たつや 1992年入社 東京名古屋 大阪各本社写真部などを経て 06年から東京本社写真センター員

北ア夏山臨時支局

新人研修かねて
山岳取材体験

▶古志野 拓史

(信濃毎日新聞社)

「北アルプス上高地と涸沢に臨時支局開設」。7月半ばを過ぎると、信濃毎日新聞が掲載する恒例の社告だ。入社1年目を中心に本社や各支社の若手記者たちが、8月下旬まで交代で入山。年間150万人が訪れる日本の代表的な山岳観光地の上高地と、穂高連峰が眼前に広がる標高約2300メートルの涸沢をベースに、さまざまなニュースを発信している。

「海の日」の7月17日。例年なら梅雨明けを待ち切れない登山者や観光客が詰め掛ける上高地は、唯一通じる県道が豪雨のため通行止めに。



臨時支局がある涸沢ヒュッテで穂高連峰をバックにくつろぐ登山者たち=7.22

長野県内では同じころ、岡谷市で土石流が発生するなど、死者が出る大災害となった。

通行止めが解除された20日、今シーズンの北ア夏山取材第一陣として上高地入りし、臨時支局として毎年駐在させてもらっている「西糸屋山荘」で取材を開始。夏休みの人出に備える旅館やバスターミナルなど、活気ある上高地を取材するのが、毎年の第一陣の大きな役目だったのに、今年は豪雨による宿泊キャンセルといった観光へのダメージを聞いて回るのが、初仕事になった。

翌日も雨はやまず、涸沢へ出発したのは3日目。大雨で増水した梓川

を横目に見ながらひたすら歩き、約6時間で臨時支局の「涸沢ヒュッテ」に到着した。この日は午前中からは2週間ぶりの青空が広がり、穂高連峰を眺めながらヒュッテのテラスでくつろぐ登山者を取材。ヒュッテの衛星通信を通じて松本本社報道部に送った写真は、翌日の一面に掲載された。

臨時支局は長い歴史をもつ。上高地支局は大正時代から、涸沢支局は1967年からだ。記者派遣には、信濃毎日新聞にとって欠かすことのできない登山、山岳取材を体験するとともに、新人研修の意味も込められている。多くの記者が「サツ担当」だ。入山中の数日間は日常の事件や事故取材、呼び出しから解放されるため、日ごろたまったストレスを大自然の中で解消するチャンスでもある。

ただ、山は特別な場所だ。3000メートル級の山々に囲まれた涸沢カールは登山者のあこがれでもあり、登るだけでもひと仕事。「山をなめていました」とは、涸沢から帰ってきた1年生記者の感想だ。

取材も、普段のように決まった当番があることは少ない。山小屋の従業員から登山者の傾向を聞き出したリ、ネタになりそうな話を求めてテ

上高地・涸沢メモ

長野、岐阜、富山県にまたがる北アルプスの南部に位置し、中部山岳国立公園内にある。2005年4月の合併で長野県南安曇郡安曇村から松本市に合併。上高地は、国内で3番目に高い奥穂高岳(3,190m)や活火山の焼岳に囲まれ、標高は約1,500m。梓川沿いに河童橋、大正池などの景勝地が点在する。登山者に人気の高い槍ヶ岳(3,180m)や穂高連峰への入山拠点でもあり、夏山シーズンを中心にぎわう。渋滞解消や環境への負担軽減を目的に、1996年から通年マイカー規制を実施。マイカー客は上高地手前の駐車場に駐車してシャトルバスかタクシーに乗り換えて入山する。涸沢は奥穂高岳や北穂高岳(3,106m)直下に広がるカール(圏谷)地形の周辺を指す。臨時支局のある涸沢ヒュッテの標高は2,309m。

ント場をさまよったり。昨シーズンは「ヘリに頼らず歩荷(ぼっか)で荷上げ」「発光ダイオード照明、山小屋で導入進む」をはじめ、現地で興味を持ち、出稿できたニュースが多い。逆に、疲れてぐったりしていれば、すぐに下山日となってしまう。「収穫ゼロ」ということもあり得る。

今シーズン、「下界」の夏は、知事選や松代高校の甲子園初出場など、多彩なニュースがあふれ、北ア取材は社内でもやや肩身が狭い。だが、私を含め、入山した記者は文字通り「足を泣かせて」歩き、登山者や山小屋の人たちと話をすることで、北アの魅力を感じられるはずだ。

この・たくじ 2003年入社 上田支社 東御支局を経て 06年4月から松本本社報道部

2年連続土砂災害

人災ゼロ
目指した態勢づくり

▶種子島 時大

(南日本新聞社)



鹿児島湾に面し、海岸線約37キロ、背後には700—1200メートル級の高隈山系が間近に迫る鹿児島県垂水市。8334世帯19101人が暮らすこの街を7月5日、時間雨量110ミリに達する猛烈な大雨が襲った。5人が犠牲となった2005年9月の台風災害を教訓に、市災害対策本部は全世帯に避難勧告を発令。土砂崩れが相次いだにもかかわらず、1人の犠牲者も出さずに済んだ。だが、台風シーズンを目前に控え、土砂災害への懸念はなおぬぐえない。

取材車のフロントガラスに容赦な

くたたきつける雨。川と化した道路をかき分けるように同市役所に向かった。昨年の台風災害の取材時と同じ情景だった。豪雨さなかの5日夜。しかし、途中が土砂流出のため通行不能で、避難所に続々と集まる住民を取材して引き返さざるを得なかった。

市を南北に走る国道220号は5カ所が寸断され、山間部ではいたるところで土砂崩れが発生。住家被害は全壊8棟、床上・床下浸水計144棟に及んでいた。それでも犠牲者が出なかったのは「台風災害での経験を踏まえ、危険地域の住民が率先して避難してくれた」（水迫順一市長）ことが大きい。

垂水市は昨年の台風災害以来、「人災ゼロのまちづくり」を掲げて対策を練っていた。早期避難態勢の確立が主眼だった。

特に力を入れたのが自主防災組織の設立。「同時多発的に発生する災害に行政だけでは対応できない」（同市長）と、台風災害前まで約10%にすぎなかった組織率を今年7月末までに約40%に向上させ、危険地域を中心に設立を進めている。

防災計画も土砂災害を念頭に大幅に見直した。全市共通だった避難勧



市と住民が協力して復旧作業に当たった=7. 11

告基準は山間部の連続雨量が平野部より50ミリ程度少なくても勧告できるように変更。指定避難場所は、ハザードマップを作る過程で判明した危険箇所などを避けて10カ所を除外、16カ所に再編した。災対本部には避難輸送対策部を新設し、交通弱者の避難対策を講じた。

今回の豪雨災害では、市内全域に避難勧告が出されたのが午後10時すぎ。遅い時間帯だったが、多くの市民が勧告に応じ、山間部の高齢者については市職員らが公用車などで避難所まで送り届けるなど、成果が現

れ出している。

南日本新聞社では、被害報告が次々と入る市の対応や、周囲に気を遣いながらの避難生活で目を追うごとに疲労の色を濃くする住民の表情を伝えたほか、復旧に向けて汗を流す姿、発生当時の気象状況などを報道した。

市が警戒した河川はらんらはなかったが、7月22日に鹿児島県北部で起きたような豪雨災害が垂水でも発生しない保証はない。何より、台風シーズンは目前まで迫り、被災者の心配も台風災害に向かいつつある。犠牲を減らす意識を高められるよう、きめの細かい報道を続けていきたい。

たねがしま・ときひろ 2003年入社
文化部を経て 05年4月から鹿屋支社
(現・鹿屋総局)

垂水（たるみず）市メモ

大隅半島の西部に位置し、1958（昭和33）年に市制施行。市内の85%を山地が占め急傾斜地が多い。鹿児島市と結ぶフェリーが運航され、大隅半島の玄関口となっている。水産業が盛んで、カンパチの養殖は年間約7700トンと日本一の出荷量を誇る。農業ではビワやキヌサヤが特産。2005年4月に同市牛根麓にオープンした「道の駅たるみず」は、全長160mという日本一長い足湯があり、間近に桜島を眺めながら楽しむことができる。

ラジオ深夜便

熟年パワーで17年

団塊世代狙い
リニューアルも

▶ 渡辺 幹雄

(NHKラジオセンター)
チーフ・プロデューサー

ユースはあまり入れない」「DJは若手タレント」に対して、「ゆつくりとした話し方」「静かな音楽」「ユースを入れる」「進行はOBアナが中心」などのコンセプトです。

現在のアンカーたちの平均年齢は63・5歳。発音明瞭で、聴取者の中高年世代と「共通の言葉・表現」でゆつたりと語りかけます。

ディレクターたちも猛者ぞろいです。現役ディレクター

は平均57歳前後。「ラジオ深夜便・こころの時代」担当者はOB中心で70歳近くですが、一人一人が相当な人脈と制作力を持っています。

懐メロ音楽も人気の秘密の一つで、番組の開始から同じ者が担当し、まさに「生き字引」です。

☞ 睡魔にはコーヒーで

こうしたプロの「熟年パワー」が深夜便を支えています。ただ、放送は午後11時から翌朝5時までの約6時間の生番組です。睡魔との闘いは「熟年」の身にはこたえます。

一番眠いのは午前2、3時頃ですが、アンカーたちにとって一番忙しいのもこの時間帯。お便り・

資料を次々読みながらのDJコーナーを2時間担当します。「頭も口も回らない」魔の時間帯をコーヒーなどで何とか持ちこたえます。こうした「完徹」の放送は、アンカー、ディレクターとも月2、3回ですが、その睡眠不足の影響は2、3日残ります。

生の長時間の放送ですから時折誤読やうっかりミスもあります。そうなる「人気番組」のつらいところで、ご批判・指摘のお便りや電話が翌朝にはどつと来ます。

私のようなプロデューサーの大切な仕事はそれらのお便りへの返事を書き、現場にその内容を伝えて、改善すべきものは改善してもらうことです。私のエネルギーの3分の1は



遠藤ふき子アンカーとゲストの中野雄さん（音楽プロデューサー）＝午前1時「クラシックを楽しむ」コーナーで

聴取者対応にあてています。

☞ ファン雑誌11万部

いま私たちは、先輩の遺産を大事にしながらマンネリにならないよう、少しずつ社会の変化に合わせリニューアルを続けています。

団塊の世代も58歳前後ですので、ゲストや音楽の選び方も昨年から少しずつ変えています。

それから「いまは私たちが歌える歌が無い」というリスナーの声にこえて、アーティストと相談しながら曲を作り、「深夜便のうた」としてこの春から放送しています。

こうした努力が実ってか、ファンの雑誌「月刊ラジオ深夜便」は昨年3月の8万部から、今年の夏には11万部に伸びています。そこには、活動的で知的好奇心旺盛な中高年の姿が見えています。

番組の基本スタンス「眠くなったからお休みください」はこれからも変えません。落ち着いた雰囲気の内々に心地良い音楽が流れ、美味しいコーヒーと会話を楽しめる、メニューも工夫して充実している、そんな「街中の喫茶店・ラジオ深夜便」を目指します。

わたなべ・みきお 1975年入局 05
年から現職

リレーエッセー

ミュンヘン五輪⑤
(1972. 9)

オリンピック
開会数日前
から連日、休
みなしの取材
で疲労もビー
クに達していた。そして大会11日
目(9・5)の朝、その悲劇は起
こった。

いつものようにプレスセンター
に行くと、普段の朝と違い、殺気
だった雰囲気。記者たちが右往左
往している。取材ルームに行く
「今朝、パレスチナ・ゲリラが選
手村のイスラエル宿舎を襲撃した
らしい」と言う。カメラをつかん
で選手村へ急ぐ。

入り口は警察に封鎖され、頑と
して入れてくれない。しからばイ
スラエル宿舎の見える場所へと思
うが、方角が分からない。そこで、
他国の記者たちが走る方へ一緒に



メインスタジアムに半旗が

駆けていった。すると大勢のカメラ
マンが群がっていた(写真下)。

長身の彼らの間へ無理やり割り込
む。宿舎のベランダに黒覆面のテロ
リストが顔をのぞかせた。一瞬「浅
間山荘事件」の時のようにこちらに
発砲してくるのかとヒヤッとした
が、何事も起こらなかった。

この場所で張り込む。少しでも離
れると他の記者に取られるので動け
ない。飲食やトイレはどうしたのか
思い出せない。

もう、くたくただった。実は不謹
慎かもしれないが、「オリンピックク
取材はこれで終わるな。事件が解決
すれば帰れる。ヤレヤレ」と思

カメラマンも走った

堀江 敬陸

っていた。

やがて日没。宿舎は真っ暗になり
撮影は不可、プレスセンターに戻り
待機する。テレビはアナウンサーが
興奮気味にしゃべりまくっている。
深夜になり、「犯人・人質はヘリ
で空軍基地へ移動した」との情報が
入り、取材は不可能と判断。や

を迎え、結局、全員死亡が確認さ
れた。

6日午前、メインスタジアムで
追悼式が行われ、五輪旗の半旗が
掲げられた(写真上)。いまでも
忘れられない一枚だ。

午後からは競技再開。そして予
定通りの日程で大会は続行、我々
のオリンピック取材も続いた。や
けくそだった。ヨレヨレになりな
がら、競技写真を撮り続けた。

(元時事通信写真部)
〓このシリーズは終わり



近寄れない現場にはノツポになって
脚立の活用を。伝授したのは日本メ
ディアだったとか。この事件前年の9
月、昭和天皇訪欧に同行した日本人カ
メラマンたちが愛用しているのを見て、
大男たちも早速導入を決め込んだらし
い。望遠レンズを持った各国カメラマ
ンは、この時とばかり大小の脚立を持
ち込み、張り込んだ(時事通信提供)。

情報発信特番V

■二胡、琵琶、楊琴など中国伝統楽器を演奏するユニットC-gal（シーガル）がセカンドアルバム発



C-gal（東方女子楽坊）ミニライブ会見

狩野近雄著「記者とその世界」

狩野近雄氏（元毎日新聞常務・東京本社編集局長・スポ日社長）の遺著「記者とその世界」が最近発掘された。1977年急逝された狩野氏を偲んで編まれた私家版だったため、親しい方に配られただけで遺族宅に眠っていた。今年初めて知った毎日OBが一読して感動、遺族宅に残部があることが分かった。戦中戦後（東京裁判の頃まで）の新聞事情がリアル

海洋冒険家の堀江謙一さん（67）

が今度は、波の力だけで進む「波浪推進船」の航海に挑戦することを発表した。2008年3月中旬にハワイを出発、約2カ月半かけて6000キロ離れた紀伊水道のゴールを目指す。これまでも風、ソーラー、足

売を記念して来日した。全員が北京音楽大などの学生または卒業生というエリート。今後、日中国交回復35周年（07年）や北京五輪の記念イベントなどで「日中文化交流音楽使節」として活動する。来日を後援した中国大使館の趙宝智公使が演奏前にあいさつした。（7・11 10階ホール）

ユビキタス・コンテンツビジネスのすべて

前坂 俊之（毎日新聞出身）「ユビキタス」とはいつでも、誰とでも、どこからでも、どのような端末からでも、自由自在に情報やりとりが可能になるネット

世界をさす。パソコン、ケイタイ電話、ICチップの進化でインターネットの世界は今、「ユビキタス」に突入しており、日本は世界最先端のユビキタス社会が幕開けようとしている。その中でテレビ、映画、放送、ゲーム、通信業界など、コンテンツビジネス産業の問題点や未来図を「Q&A」方式で解説した。（PHP研究所 1575円）

会員の皆さんの新刊書を紹介しています。自著の狙いやポイントを2000字程度でおまとめいただき、事務局本庄までお送りください。



堀江さんの新たな挑戦

（7・13 10階ホール）

こぎとエコ航海に挑んできた。「今回は波を吸収する仕組みなので船体の揺れが少なく、体力的には楽かもしれないが、前例がないので頑張りたい」と抱負を語った。

囲碁の会

梅雨明けが待ち遠しく感じられる7月22日（土）、今年も紅友会との対抗戦を行いました。訪れたのは六段の岩本さんを筆頭に五段7人、四段4人、三段5人、二段3人の20人の婦人がた。迎えるクラブ囲碁会もピタリ20人の精鋭（?）。

一人三局を公式戦としたところ、紅友会には3連勝の4人を含み12人が勝ち越し、総合成績でもクラブの28勝32敗で、5年ぶりの負け越しとなりました。負け惜しみではありませんが、勝負はさておき、お互いに1年ぶりの再会を喜びつつ、手談に興じた午後のひとときでした。（河野）



「今年の紅友会は強かった」はたまたまコチラの腕が落ちたのか

カポータイ



官庁担当でも、企業担当でも、

あるいはスポーツや文化担当でも「こいつ、取材先の代弁をしているな」と苦笑してしまう記者がよくいる。何もそれが悪いとは思わない。大事なものは、原稿を書くときに読者の立場にたつてそれを評価、批判できるかである。ある時は取材対象にのめりこまないと深みのある記事は書けない。その一方で、のめりこみすぎると、記事の客観性が保てなくなる。

その「距離感」をどう保つかで、われわれは日々悩んでいるといっ

ていいだろう。

●取材現場の苦悩と二重写し

離間の難しさを改めて教えてくれる。カポータイはノンフィクションノベルを書くために、米カンザス州の田舎町で起きた一家4人殺害事件の容疑者2人と拘留所で接触。そのうちの一人、ペリー・スミスとは心を通わせるまでの関係を築く。ただ、小説のタイトルが「冷血」であると報じられたことで、ペリーは心を閉ざす。最終局面でカポータイはペリーの身を案じつつ、死刑にならなければ自らの作品が完結しないというジレンマに陥る。

「死刑の回避か、自らの作品の完成度か」というのは究極の選択であるにしても、取材先との信頼関係か、スクープかで悩んだ経験を持つ記者は多いはずだ。映画の中のカポータイには人間的に何ら共感することはできなかったが、心情的なつらさをこらえてペリーの死刑執行現場に立ち合う作家としての職業意識には息をのんだ。取材・報道に携わる人間にとっては極めて示唆に富んだ作品である。

日本経済新聞編集局次長・社会部長 田中 信行

紙屋悦子の青春



感動した。だれかさんと同じ台詞だが、あちらは激しく表現し、こちらは静かに胸のうちに秘める。一つの時代状況を見事に切り取った感動的な作品である。「あの時代を生きた若者たちに捧げるレクイエム」という言葉を残して、4月に急逝した黒木和雄監督の遺作となった。岸田國士戯曲賞・読売文学賞などを受賞した劇作家、松田正隆が実母悦子さんをモデルにした戯曲が原作。「父と母が戦争を生きてきて、その中で出会った。身近な父母の記憶に戦争を見つけた」という。

●戦争を生きた若者への鎮魂歌

昭和20年(1945)春、鹿児島県の田舎町。映画の舞台はこの二つだけ。主役の二人は脇役に支えられて光る。悦子が好意を持つ兄の後輩で海軍航空隊の明石少尉。彼は沖縄特攻出撃の覚悟を決め、愛する悦子の生涯を信頼できる親友の同僚整備士官・永与少尉に託したいと願う。極限の状況下ではそれだけが悦子への最高の愛情表現だった。

出撃前夜の惜別は胸を打つ。「悦ちゃん、行つてこねね! 早う! 明石さん、行つてしまいなさつたがね!」と叫ぶ義姉。「体が凍りつき、動けない」とパンフレットにあった。私はそうは思わない。ここで動揺したらすべてが無に帰す。自らの強い意志で必死に耐え、それが慟哭となった。

同じ監督の『父と暮せば』は広島弁。こんどは鹿児島弁。方言の繊細、強さが生きている。

自我がない。いまなら批判できる。だが、同じ時代を生きた者として「反戦」の枠を超え「人間」や「信頼」「愛」を奥深く考えるきっかけにできたらと思う。

読売新聞出身 原 孝文

情報発信

クラブ施設では会員による各種の会合が行われています。企業や大使館などの賛助会員も記者発表の場としてクラブを利用しています。

■日本自治学会シンポジウム「三位一体改革のネクスト・ステージ」

片山虎之助自民党参院幹事長、菅直人民主党代表代行、増田寛也岩手県知事、本間正明大阪大大学院教授らが地方分権改革の今後の課題について議論した。コーディネーターは元日経の松本克夫氏。(7. 1 10階ホール)
照会先：日本自治学会事務局 Tel：03-3220-2148

■七夕の夜に、米原万里さんを送る集い

通訳、作家、ジャーナリスト、友人など400人余りが出席。自身が通訳を務めたソ連・ロシア要人の記者会見場でもあった会場に掲げられた遺影は、華やかな深紅のバラで囲まれた。通訳者として、作家として、そしてひとりの女としての「万里さん」を阿刀田高、姫野カオルコ、佐藤優、妹の井上ゆりさんらが次々と登壇しユーモアたっぷりに「暴露」。大輪の花のような故人にふさわしい七夕の夜の送る会となった。(7. 7 10階ホール)

■マスコミ倫理シンポジウム「いまマスコミに問われているもの ネット時代のジャーナリズムとは？」

第1部はインターネット新聞「JANJAN」を主宰する竹内謙氏(元朝日)が講演。第2部は高成田享朝日論説委員(司会)、湯川鶴章時事編集委員、松沢雄一神奈川新聞デジタルメディア局長、金平茂紀TBS報道局長、神保哲生ビデオニュース・ドットコム代表らがネット時代における既存メディアの課題などについて討論した。(7. 8 10階ホール)

照会先：マスコミ倫理想談会全国協議会
Tel：03-3591-3465

■日本エッセイスト・クラブ賞贈呈式

第54回の同賞は小林弘忠氏の『逃亡「油山事件」戦犯告白録』、内藤初穂氏の『星の王子の影とかたちと』、中島さおり氏の『パリの女は産んでいる』に贈られた。小林氏は元毎日新聞記者。内藤氏はサンテグジュペリ『星の王子さま』の翻訳者内藤渥氏の長男。(7. 10 宴会場)
照会先：日本エッセイスト・クラブ事務局
Tel：03-3502-7287

■ホプキンス高等弁務官補記者会見

国連難民高等弁務官補のジュディ・チェン・ホプキンス氏が会見。スーダンや東ティモールなどの国内避難民の支援が緊急な課題であると訴えた。(7. 11 10階ホール)
照会先：UNHCR駐日事務所 Tel：03-3499-2011
<http://www.unhcr.or.jp/>

■回想 五十嵐一先生の会

「悪魔の詩」の翻訳者で筑波大助教授の五十嵐一さん殺害事件が7月11日、時効15年を迎えた。遺族や同僚、友人ら200人が出席し故人を偲んだ。夫人の雅子さんは「時効ということで、むしろ多くの報道がされた。この事件を知ってもらい真相解明につながれば」と期待を込めてあいさつした。(7.14 10階ホール)

新しいOB会員

■ゴールド・メダル「東京テクノ・フォーラム21賞」受賞記念講演会

東京テクノ・フォーラム21(代表：滝鼻卓雄読売新聞東京本社社長)は、先端科学技術の研究に取り組む気鋭の若手科学者にゴールド・メダル賞を贈っている。受賞者の上杉志成京都大学教授、高柳広東京医科歯科大学大学院教授、湯浅新治産業技術総合研究所研究グループ長が研究成果についてを講演した。(7. 18 10階ホール)
照会先：東京テクノフォーラム Tel：03-3642-4197

■OECD東京政策フォーラム

午前中の当クラブでの記者会見に続いて、アンヘル・グリア事務総長が第1部「開発のための投資」で基調講演。麻生太郎外相、黒田東彦アジア開発銀行総裁も講演した。(7. 20 10階ホール)
照会先：OECD東京センター Tel：03-5532-0021
<http://www.oecd-tokyo.org/>

■日本ジャーナリスト懇話会7月例会

野中広務元自民党幹事長が「小泉政権の残したもの」と題して講演した。(7. 21 大会議室)

■後藤新平の会 2006シンポジウム「21世紀と後藤新平—世界構想と世界戦略」

木村汎殖大学教授、榎原英資早稲田大学教授、塩川正十郎東洋大学総長、松田昌士J R東日本相談役、御厨貴東大教授(コーディネーター)らが後藤新平の「世界構想の意味」についてパネル討論した。(7. 22 10階ホール)
照会先：藤原書店内 後藤新平の会事務局 Tel：03-5272-0301 <http://goto-shimpei.org/>

■日本外交協会7月例会

外務省の蔵中三十二外務審議官が「サンクトペテルブルク・サミットG8—その成果と裏話—」のテーマで講演した。(7.28 宴会場)
照会先：日本外交協会事務局 Tel：03-3584-6200

バー、レストラン、宴会

予約電話 和食3503-2723 洋食3503-2766

**8月：仔羊のメリーさん**

8番目の干支、未をモチーフに、
テキーラ、レモンジュース、グレナ
デンシロップなどでアレンジした淡いピンク色
のカクテルです。お試しください。

**涼風懐石コース（9月1日まで）**

見た目の涼しさを食器や盛りつけで表現して
みました。グラス冷酒がついて5,250円です。

（板長：薬科浩）

先付2点 生もの：刺身3点 焼き物：福子塩焼 冷や
し煮物：鮎おも湯漬 揚げ物：海老真丈揚げ 酢の物：
夏鴨塩蒸し 食事：そうめん 甘味：赤肉メロン

**初秋特別コース（9月4日～10月6日）**

前菜：ホタテ貝とキノコのソテー スープ：
松茸入りコンソメスープ メーン：牛フィレ
肉の焼きしゃぶ仕立て デザート：シャーベット
これにパンとコーヒーがついて2,890円です。ランチ
タイムにもおためしいただけます。（シェフ：黒須修一）

一般メニュー半額サービス 9月1日まで

アラスカ夜の部の全品目を半額（サービス料別）で提
供する特別期間も残りわずかです。この機会にぜひご利
用ください。予約をお願いします。

寄贈書

▶『時事通信社60年史』時事通信社 ▶『新聞のあゆみ—
明治から現代まで』『平成17年度 日本新聞協会の活動』
『日本新聞協会報 平成17年』日本新聞協会 ▶『政治
記者の目と耳 第6集 政治記者OB会』安藤哲会員

招待券（ご寄贈いただきました）

▶朝日新聞社『ふしぎ大陸南極展2006』『人間国宝 三
輪壽雪の世界』▶日本経済新聞社『モダン・パラダイス
展』▶東京新聞『パウル・クレー 創造の物語展』

クラブの電話 ダイアルイン

和食レストラン（9階）	会員事務
3503-2723	3503-2725
洋食レストラン（10階）	経 理
3503-2766	3503-2728
貸室予約、宴会打ち合わせ	
3503-2724	
受 付	会見申し込みアドレス
3503-2721	kaiken@jnpc.or.jp
クラブ行事への申し込み	URLアドレス
3503-2722	http://www.jnpc.or.jp

会報委員会

委員長＝住田良能

委 員＝池谷 忍 石田昭彦 伊藤三郎 仙石伸也
高橋利行 西田善夫 松本侑子

連 絡＝長谷川和子 本庄五月

（電 話 03-3503-2752 FAX 03-3503-7271）

置き傘をお引き取りください

東京も長い梅雨がようやく明けました。傘立てに放置
されていた置き雨傘を受付でお預かりしています。8月
末までにお引き取りのない傘は処分いたしますので、ご
了承願います。

■役員交代**<理事>**

共同通信社	（新） 竹田保孝常務理事・編集総本部長
	（旧） 国分俊英
時事通信社	（新） 岸田郁弘常務取締役財務経理・マ スメディア担当
	（旧） 三橋清二
北海道新聞社	（新） 高橋雅博東京支社長
	（旧） 杉江良之

<監事>

熊本日新聞社	（新） 中西雄一取締役東京支社長
	（旧） 野方正治

■法人代表変更

宮崎日日新聞社	（新） 三宅理一郎代表取締役社長
	（旧） 長友貫太郎
WOWOW	（新） 和崎信哉代表取締役会長
	（旧） 佐久間昇二
山形放送	（新） 園部稔代表取締役社長
	（旧） 佐藤充彦
エヌ・ティ・ビー	（新） 吾妻光良代表取締役社長
映像センター	（旧） 秋元博

<会員現況> 法人会員 147社 基本会員 809人
個人会員 1,648人 法人・個人賛助会員 77社 188人
特別賛助会員 74人 名誉・功労会員 10人
計 224社 2,729人

HP <http://www.jnpc.or.jp/>**「会見速記録」：7月の新規掲載**

●サム・ジェームソン 元ロサンゼルス・タイムズ
東京支局長 「『変わった首相』のプラスとマイナ
ス」(06. 6. 22) ●福井俊彦 日銀総裁昼食会 (06. 6.
20) ●田中均 前外務審議官「北朝鮮との交渉はトッ
プの権威のもとで」(06. 5. 15) ●大日方邦子 アル
ペンスキー選手 「金メダリストの挑戦—トリノ・
パラリンピックを終えて」(06. 4. 18)

今後の行事予定（8/3現在）

8. 19（土）	14：00～15：50（10階ホール） 試写会「ディア・ピョンヤン」
8. 25（金）	12：15～13：45（10階ホール） 但木敬一 検事総長昼食会
8. 26（土）	13：30～16：30（10階ホール） 試写会DVD版「岩倉使節団の米欧回覧」
8. 28（月）	12：00～13：45（10階ホール） 御手洗富士夫 日本経団連会長昼食会

行事案内専用電話 03-3503-3764

日時の変更なども含め、最新のクラブ行事をテープで
お知らせしています。

写真回廊

撮影 網 裕子 (共同通信社)
写真部



なにゆえかプーチンさん以外の視線は小泉首相に
(7.17 サンクトペテルブルク)

引き際いろいろ

コスプレサミット、ラーメンサミットと、いまや何でもサミットのご時世だが、元祖・主要先進国首脳会議は、1975年、30年以上も前に始まっている。第4次中東戦争後の石油ショックで瓦解した世界経済秩序を立て直そうと始められたのだが、30年後の今年のサミットでも、議題の中心は中東の危機であり、石油であり、核問題だった。新たな危機の要素として北朝鮮が加わった。世界の歯車はいったいどう回っているのかとあらためて考えさせられる。

サミット、頂上とは、道路や鉄道の上り勾配が終わって下り勾配にかかる地点、という説明がある。いわれてみればその通りで、私たちとしては、世界のありようが、頂上を過ぎて、下り勾配を転げ落ちるような姿にならないことを願うばかりである。

小泉首相にとって、サンクトペテルブルクは最後のサミットだった。歴代首相中最多の6回出席。さまざまな思いもあっただろう。自らを「沈む夕日」になぞらえたとも伝えられた。

このところ、人の引き際の行動がずいぶんニュースになった。引退を表明したサッカーのジダン選手は、W杯の最後の試合で頭突き事件を起こし退場になった。野球の新庄選手は最後のオールスター戦で「ほっ」といってくれ、おれの人生」と電光ベルトを輝かせた。人生いろいろである。

(有馬真喜子)